

第138号

編集・発行

2023・1・31

社会福祉法人
三戸町社会福祉協議会

〒039-0132

三戸町大字在府小路町17

TEL:0179(22)0262

FAX:0179(23)4146

さんのへ 社協だより

令和5年 新年号

住み慣れた地域で、だれもが安心して暮らせるような福祉社会をめざしてがんばります!!

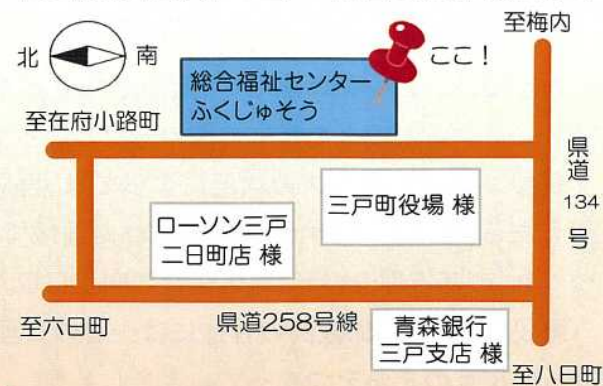


子どもほのぼの交流会 トランプを楽しむ様子 (R4.11.28 三戸小学校体育館)

■おまな内容

	ページ
○新年のごあいさつ	2
○オレンジカフェふくじゅそう	3
○子どもほのぼの交流員の取組み	4
○子ども福祉スクール	
郡見守りネットワーク研修会	
憩いの森あすもこっクリスマス会	
老人クラブ交通安全教室	5
○ふれあい交流サロン助成事業のお知らせ	6
○昔とった杵柄 シルバー健在	7
○各種おしらせ	8

社会福祉法人 三戸町社会福祉協議会



この社協だよりは、県共同募金会からの配分金と社協会費を使わせていただいております。

令和5年 新年のごあいさつ



三戸町社会福祉協議会
会長 関向 文男

新年あけましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり、謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

町民の皆様には健やかに新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。また、日頃より地域福祉事業の推進に深いご理解と温かいご協力を賜り、厚く感謝申し上げます。

さて、昨年はロシアによるウクライナへの軍事侵攻や急激な円安の進行による原油価格の高騰・物価上昇が、日常生活に大きな影響を与えた一年でありました。

また、長期化している新型コロナウイルス感染症についても、強い感染力を持つ変異株の流行により、昨年一年間の県内における感染者数は約25万人と、これまでにない規模で拡大し、多くの方が様々な場面で影響を受けたことと思います。

一方で、昨年は行動制限が緩和され様々な活動が再開された一年でもありました。青森ねぶた祭や八戸三社大祭など県内各地で夏祭りが開催されるなか、10月にはさんのへ秋まつりも開催、3年ぶりに響いたおはやしに元気をもらったという方も多かったでしょう。

本会としても、令和2年2月以降休止していたオレンジカフェが昨年末ようやく再開にこぎ着け、サロン活動についても新たに一地区でふれあいサロンが行われるなかで、交流を深め居場所をつくる事業の大切さを参加者の皆さんと共有できたことを非常に喜ばしく感じたところです。

昨年11月から12月にかけて開催された、サッカーW杯カタール大会において、下馬評を覆し次々と強豪国を打ち破った日本代表を指揮した森保一監督。森保氏はインタビューのなかで「一丸の力がなければ結果は出ない、選手たちが世界と戦えることを示してくれたのは、国民の皆さんとともにチームが戦えた日本の国の力だと思っています」といった発言をされています。

新型コロナウイルスの状況によっては、再開できた事業についても慎重な判断を求められる場面もあるかと思いますが、「住み慣れた地域で誰もが安心して暮らせる、心の通い合う福祉のまちづくり」の基本理念の元、地域福祉の向上に取り組んで参ります。

町民の皆様、関係機関の皆様には一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。どうか“一丸”となって福祉のまちをつくっていきましょう。

結びに、皆様にとりまして、本年が健康で幸多き一年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。

オレンジカフェふくじゅそう ～2年10ヶ月振りに再開～

12月20日(火)、新型コロナウイルスの影響で休止していた「オレンジカフェふくじゅそう」を町総合福祉センターふくじゅそうで開催しました。令和2年2月以来、2年10ヶ月振りの「開店」となったこの日は地域の方とスタッフ併せて約20名が「来店」、淹れたてのコーヒーやカフェオレを片手にお喋りやレクリエーションを楽しみました。

オレンジカフェという名称には、「認知症の方も来られるカフェは、誰にとっても優しいカフェである」という思いが込められています。美味しいコーヒーをご用意しておりますので、どなたでも、おひとりでもお友達同士でも、どうかお気軽にお越しください。

カフェの開店は毎月第3火曜日の午後1時30分。祝日などの関係で前後の週に変更となる場合がありますが、ミニ講話やイベントの内容と併せて回覧チラシでご案内いたしますので、お見逃しなく。



カフェタイムの様子。オレンジカフェふくじゅそうでは、ゆっくりとお喋りや専門職への相談ができるよう、イベントを行わない自由時間(=カフェタイム)を設けています



再開にあたってコーヒーメーカーを抹茶やラテも作れるものに入れ替え。当日はコーヒーとカフェオレを自由に楽しんでもらいました。サンタの袋は参加者へのプレゼント



カフェタイム後のクリスマス会の様子。休止前は毎回、健康や暮らしをテーマにしたミニ講話を企画していましたが、12月だけは趣向を変えてレクリエーションを取り入れたクリスマス会を行っていました。再開にあたってオレンジカフェのテーマである認知症を全面に押し出していくことも検討しましたが、長引くコロナ禍において久しぶりの集まる機会ということで、笑顔で楽しい時間を共有してもらいたいと考え、レクリエーションによる交流を企画。「楽しかった、また来よう」久しぶりに頂くその言葉のありがたみをスタッフ一同で噛みしめる再開初日でした



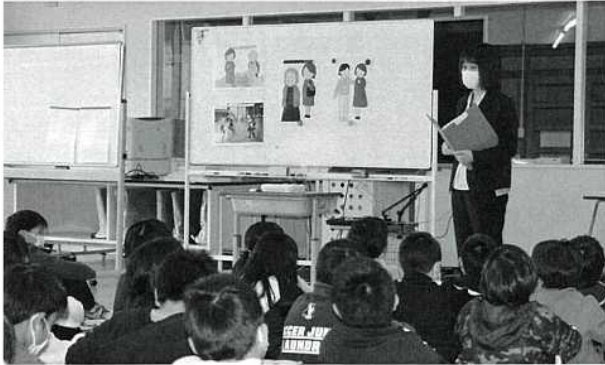
オレンジカフェふくじゅそう ～毎月第3火曜日頃に開店します～

- 場 所 三戸町総合福祉センター ふくじゅそう地下1階 多目的スペース
- 参加費 ひとり100円 ● 申込み 前日までに電話でお申込みください
- 時 間 13:30 開店・カフェタイム → 13:45 ミニ講話など → 14:30 閉店
- 2月以降の予定 2月21日(火) 3月14日(火) 内容は回覧チラシをご確認ください

子どもほのぼの交流員の取り組み

11月28日(月)、三戸小学校の4年生児童57名と地域の高齢者8名がゲームやスポーツで交流しました。このゲームやスポーツは事前のガイダンスで学んだ高齢化の現状を踏まえて、子どもたち自身が企画、準備したもの。マスクの着用で表情がわかりづらいなかでも「来てくれるおじいちゃん、おばあちゃんに喜んで欲しい」という一生懸命な気持ちは伝わるもので、笑顔があふれる交流会となりました。

■**ガイダンス**…11月7日(月)。高齢化の実態や高齢者との接し方を学んだうえで、交流会のアイデアを出し合いました。



ほのぼの交流協力員の活動を学ぶ様子

■**交流会**…11月28日(月)。これまでの成果が試されるときです。想定どおりにいかないときもありましたが、そんなときも「次はこうしてみよう」と考え、工夫する様子が見えました。



東京パラリンピックで一躍有名になったボッチャをより簡単にアレンジ。床に貼った得点表目掛けて玉を投げ、高得点を狙います



交流会の休憩時間、参加者が持参したお手玉で技を披露。流石の手さばきに「すごい！すごい！」と歓声が上がりました

～子どもほのぼの交流員とは～
地域の高齢者等を見守る「ほのぼの見守りネットワーク事業」は平成7年に三戸町からの委託事業として始まりました。当初からボランティアである、ほのぼの交流協力員の皆さんを中心に、町内会長や民生委員の皆さんの協力の下で実施しています。
子どもほのぼの交流員事業は、ほのぼの交流協力員の「子ども版」として平成13年度に当時の三戸北小学校でスタート。現在は三戸小学校に活動の場を移し、福祉の心を育てることを目的に毎年、高齢者との交流を行っています。



しりとりにゲーム。五十音のひらがなカードを用意したり、回答数に応じて折り紙をプレゼントしたりと、随所に盛り上げる工夫が



交流会の終わりには、子どもたちから生演奏つきの合唱や手づくりの入浴剤など心のこもったプレゼントがありました

子ども福祉スクール

11月14日(月)、子ども福祉スクールを開催し、三戸小学校の3年生児童49名が高齢者福祉について学びを深めました。

子どもたちは白内障体験眼鏡や手袋などを装着することで高齢者の身体的な特徴を疑似的に体験。教科書を読む、買い物をするといった日常的な行為に生まれる差異や、車椅子を操作するときの気遣いの大切さなどを学びました。



車椅子に乗る側と押す側、両方を体験することで声掛けなどの大切さを学びました

憩いの森あすもこっクリスマス会

12月15日(木)、地域活動支援センター「憩いの森あすもこっ」のクリスマス交流会を開催しました。この日のために数日前から手製のクリスマス飾りで会場を装飾、美味しい食事とレクリエーションを楽しみました。



麻雀牌を使ったレクリエーションの様子

■憩いの森あすもこっについて

障がいのある方の地域での暮らしを支援することを目的とした**通所型の施設**です。通所者はお菓子づくりや布製品の製作、農作業など様々な活動を楽しみながら行っています。

場 所: 勤労青少年ホーム(川守田関根4-1)

開設日: 毎週月曜～金曜

郡見守りネットワーク研修

12月9日(金)、三戸郡社会福祉協議会主催の「三戸郡内町村見守りネットワーク研修会」がリモート形式で開催されました。

当日は東北メディカル学院理学療法学科主任の桜田由紀子氏を講師に迎え、高齢者等の見守りやふれあいサロンの運営ボランティアなど関係者50名が参加、三戸町からも10名が参加し、コロナ禍における見守りや支え合いのかたちについて学びを深めました。



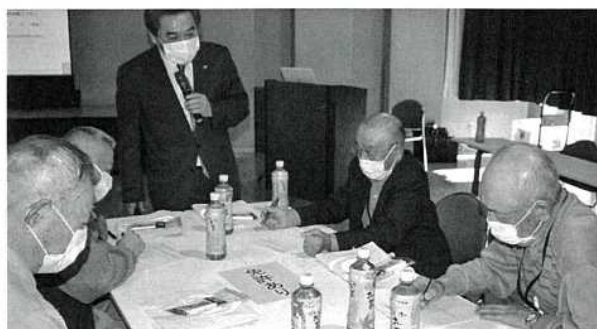
サロンで使える、座ってできる運動を楽しみながら学びました

老人クラブ交通安全教室

11月11日(金)、町老人クラブ連合会主催の交通安全教室が開催され、会員21名が参加しました。この教室は高齢者が交通事故の加害者にも被害者にもならないよう啓発を促すことを目的とした県の事業を活用したもので、参加者同士の積極的な対話の機会が特徴。

参加者は運転免許の保有の有無で班分けされ、歩行者と自動車、双方の立場に分かれて互いを評点し合い、意見交換をしました。

参加者からは「対話をしたことで自身の行動を振り返るきっかけになった。歩行者も自動車も互いに譲り合うべきだな」と感想が聞かれました。写真は講師の(株)ムジコ・クリエイト名古屋武一氏(写真奥)と参加者



ふれあい交流サロン助成事業～サロンであなたの地域を笑顔にしませんか～

社協ではふれあい交流サロンを開催する団体に助成を行っています。開催に向けたアドバイスやチラシの作成、レクリエーション用具の貸し出し、職員の派遣など、サロンの開催を全面的にお手伝いしますので、一緒にサロンを作っていきましょう。

また、新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いたらやってみたい!という方に対しても、実際に活動している地域の内容を紹介しながら丁寧に説明させていただきますので、ぜひご相談ください。

ふれあい交流サロンとは

皆さんの身近にも、高齢の方や小さなお子さんがあるご家庭など、一人で心配ごとや悩みごとを抱え、寂しい思いをしている方はいませんか？

ふれあい交流サロンは、おしゃべりやレクリエーションを通じて、身近な住民の方どうしの『仲間づくり』や『居場所づくり』を進める活動です。



■**実際のサロン活動の様子**…写真は新型コロナの流行前に開催したときのものですが、写真に写る誰もが笑顔でレクリエーションを楽しんでいるのが分かります。サロンで笑い合えば、普段の交流も生まれ、それは閉じこもりの予防や防災にも役立ちます。



■助成事業の概要

助成金額

開催1回につき5,000円、単一年度につき15,000円をそれぞれ上限とします。
ただし、新型コロナ感染症対策として消毒用品などを購入する場合には、別途助成金を交付します。(単一年度につき原則上限5,000円)

申請手順

開催1回ごとに 申請書提出 → サロン実施 → 報告書、請求書提出
社協では、申請書受領後に決定通知を送付。報告書、請求書受領後に助成金を送金

■サロン実施のポイント



実際にどんなことをしたらいいのかわからないし、準備も大変そうで、難しく思うなー。うちの町内じゃ参加者が集まるかも不安だよ。

サロンと言うと難しく聞こえるかもしれませんが、つまりは住民の集まる機会を作って、ちょっとお喋りをするというだけで構いませんよ。

新型コロナがこういう状況ですから、新しく始めるというのではなく、いきいき百歳体操など普段から集まる場面とサロンを組み合わせてもいいかもしれませんね。



昔とった杵柄

シルバ一健在



小原一夫さんの巻

昭和十四年八月十三日生まれ 八十三歳

今回のシルバ一健在は、長年郵便局員としてまた川柳作家として活躍されている在府小路町の小原一夫さんをご紹介します。

小原さんは父正造さん、母よしのさんの7人兄弟の第一子として、昭和14年、糠部神社近くの母よしのさんの実家で生を受けました。この、よしのさんのお家というのが代々境内の掃除など管理役を担っていた家柄で、小原さんも湧水を汲みに城山の坂を往復したそう。

父正造さんも小原さんと同じく郵便局員。ただ戦時中は岩手県大槌町の工事現場をはじめ各地を転々としていたため、召集令状も釜石で受け取り大慌てで帰ってきたほど。

小原さん自身も空襲警報が鳴ると幼い弟妹の手を引いて防空壕に

避難する日々、時には誰かが漆の木を触ったために兄弟揃って漆かぶれになったことも。そして昭和20年、小原さんが6歳のときにようやく終戦を迎えます。

そんな時代であっても、野鳥を空気銃で撃って捕まえたり、川遊びも急流を求めて泉山まで行ったりと元気いっぱい。雷平や箸木山の坂でのソリ遊びも「水を撒いて水を張るとスピードが出て楽しいんだよ。男女関係なく、女の子もスカートの中を雪だらけにして遊んでいたね。馬車を引いた人には、コラお前達！って大目玉をくらったけどな」とやんちゃな一面の光る少年時代を過ごしました。

三戸高校では放送部とバンド活動に打ち込み、文化祭で当時流行り

の三橋美智也を仲間と演奏、歌う役はボーカルの小原さん、といったかたち。昭和33年に高校を卒業すると、集団就職で東京蔵前の帽子会社になんとバンド仲間の3人も同じくこの会社に入り、同級生4人での東京生活が始まったわけだ。

5月にはアジア競技大会が東京で開催。その開会式で日本選手団が着用した帽子こそ、小原さんの会社で制作したもの。大きな仕事に携われることを誇りに感じた小原さん。

6月にボータスが出ると修学旅行と称して伊豆大島を仲間と旅行。しかし東京での修学旅行は本当にこれが最後になってしまうのだ。

11月に父正造さんが倒れたことで帰郷、工事現場などで働きながら昭和36年、21歳のときに三戸郵便局に入職、ここから約40年にわたる郵便局員人生が始まるわけです。中高と新聞配達のアルバイトをしていたので住宅の場所はばっちり。昭和38年には高校時代に年賀状のアルバイトで知り合った妻の景さんと結婚。ふたりの子どもに恵まれます。さて、忙しい日々のなかで、熱中し活力の源となつたのが川柳でした。新聞配達のアルバイトのとき、紙面

を見かけて投稿したことがきっかけ。母の生家があり思い入れの強い三戸糠部の名で投稿した作品は見事入選。創作活動を続けていくなかで平成12年には弘前桜まつりの折、同市出身の川柳作家渋谷伯龍さんともNHKの番組で対談。

実は昨年8月に身体を壊して入院した小原さん。2ヶ月あまりの入院生活中、仲間からのお手紙のなかには、「小原さん、たくさん川柳がつかれますね。いやいやそんなことはないか」と冗談めかしながらも身体を気遣う温かい内容のものが。しっかりとそんなことはあったよう。

救急車に

噂の種も

供に乗り

これが入院中の一句。

これからもお元気でいてください。



結婚50年、
金婚祝いの色紙は
お孫さんの直筆

善意の窓

ご寄附をいただいた皆様、ありがとうございました。

(令和4年8月1日～令和4年12月31日まで)

寄附金の部

- 青森県市町村職員年金者連盟 様 5,000円
- 立正佼成会 八戸教会 三戸支部 様 10,000円
- 大友会 様 50,000円

物品の部

- 匿名 様 タオル、布団
- 一般社団法人生命保険協会青森県協会 様 車椅子
- 立正佼成会 八戸教会 三戸支部 様 米
- 三戸ライオンズクラブ 様 食料品

寄せられた善意は地域福祉活動のために使わせていただきます。

心配ごと相談所

心配ごと相談所では、相談員が心配ごとや困りごとの相談に対応しています。ひとりで悩まず、どんなことでもご相談ください。

- 開設日…毎月最終水曜日
- 時 間…午後1時から午後3時
- 場 所…三戸町総合福祉センター
ふくじゅそう3階 小会議室3

シルバー人材センター

屋内外の清掃や草取り、農作業など、身近なお仕事がありましたら、ぜひシルバー人材センターにご依頼ください。

シルバー人材センターの会員が真心を込めて作業いたします。

会員随時募集中!

皆さんの経験を地域のために役立ててみませんか

経済的なことでお困りの方に対する支援制度～ひとりで悩まず、まずはご相談を～

■生活福祉資金…青森県社協の貸付制度。三戸町社協が相談と申請の窓口です。

資金の使途・目的	貸付限度額	償還(返済)の据置期間	償還(返済)期間	利子・連帯保証人その他
高校や大学、専門学校に入学するために必要な費用…(就学支度費)	50万円	卒業後6ヶ月以内	20年以内	<ul style="list-style-type: none"> ■無利子・保証人不要 ■世帯内で連帯借受人が必要 ■就学支度費は入学時の1回のみ ■教育支援費は在学期間中を支援する
高校や専門学校、大学で就学するために必要な費用…(教育支援費)	高校…3.5万円 短大…6万円 専門…6万円 大学…6.5万円 ※すべて月額	卒業後6ヶ月以内	20年以内	
緊急的に必要な少額の費用…(緊急小口資金)	10万円	2ヶ月以内	1年以内	■無利子・保証人不要
生活の再建に必要な日常生活の維持費用…(総合支援資金)	月額20万円 ※単身世帯は15万円まで	最終貸付日から6ヶ月以内	10年以内	<ul style="list-style-type: none"> ■利子年1.5% (保証人があるときは無利子) ■原則保証人が必要 ■支援する期間は最長で12ヶ月間

■三戸町たすけあい資金…三戸町社協の貸付制度。緊急的に必要な少額の資金を貸付します。

資金の使途・目的	貸付限度額	償還(返済)の据置期間	償還(返済)期間	利子・連帯保証人その他
緊急的に必要な少額の費用	5万円	応相談	貸付から1年以内	<ul style="list-style-type: none"> ■無利子 ■原則保証人が必要

■フードバンク…緊急的に支援が必要な世帯に対し、食料品や日用品などを無償で提供します。

●お問い合わせ 三戸町社会福祉協議会まで TEL.22-0262 FAX.23-4146